

WGの開催状況

第1回会合(平成21年10月20日)

・構成員からのプレゼンテーション(日本放送協会、KDDI、日本電気、日本アイ・ビー・エム、NICT)
及びディスカッション

第2回会合(平成21年10月20日)

・構成員からのプレゼンテーション(パナソニック、東芝、富士通、日立製作所、NTT、三菱電機)
及びディスカッション

主な議論

【社会的ニーズに応える研究開発】

- 社会的課題と研究開発課題がどう関わるのかのリンクを明確にしていくことが重要ではないか。
- 研究者が技術開発目標だけにとらわれず、社会的ニーズに応える可能性のある副産物にも常に気を配ることが必要ではないか。
- 省エネなど、課題によってICT以外の技術が支配的な場合、ICTの寄与度をいかに示すかが重要ではないか。
- 研究開発の評価において、社会的ニーズに応じているかについてフォローが必要ではないか。
- 国が重点を置くべき領域としては、社会的課題に対して横断的に対応するような技術(NW技術、超臨場感映像技術、基盤デバイスなど)や、ビジネスモデルが明確でない領域、基礎研究分野などがあるのではないか。
- 課題の整理の中で、(例えば電話網→インターネット→クラウドといった)マクロな視点での技術トレンドの変化も、うまく反映できないか。
- 研究開発の企画段階で、技術者だけではなく多くのステークホルダーを巻き込んで議論すべきではないか。
- 社会的課題とのリンク付けが必ずしも明確に説明できないような基礎技術も重要ではないか。誰がどの程度の予算規模で実施することが適当か、というような観点も必要ではないか。

重点課題WGの検討状況

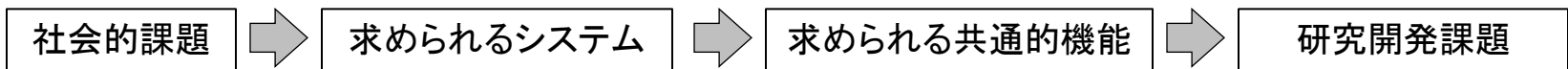
主な議論(続き)

【研究開発の推進方策・成果展開方策】

- 複数の技術を組み合わせてソリューションパッケージとして展開することが重要ではないか。
- 欧米の支援制度では、1つの案件の予算規模が大きく、ベンチャーや大学が入り、様々なフェーズが混在したプログラムとして成り立っているものがあり、また、研究開発と平行して、ベンチャーキャピタルなどへの助成を行っているほか、国の予算の一定比率を中小企業へ支出する制度(SBIR)もある。このような産業育成も含めた取り組みのあり方も参考にすべきではないか。
- 実用化への最後のハードルである実証段階において、実証実験やテストベッドなどを活用した国の支援が有効ではないか。

研究開発課題抽出のアプローチ

研究開発課題の抽出に当たっては、社会的ニーズの充足や課題の解決への貢献を意識し、以下のようなアプローチで行ってはどうか。



上記のアプローチに従い、アンケート結果を試行的に整理した。

研究開発課題抽出のプロセス(イメージ)

我が国と世界の現状(少子高齢化、競争力低下、地球温暖化・・・)

社会的課題(実現すべき社会、解決すべき問題)

課題をシステムやサービス、利用イメージにブレイクダウン

ICTにかかわるもの

システムA

システムB

サービスC

サービスD

利用イメージE

ICTに求められる共通的な機能の抽出と類型化

機能A

機能B

機能C

機能D

機能E

技術課題(研究開発課題)

非技術的課題

到達目標A

到達目標B

中間目標A

中間目標B

中間目標C

テーマA

テーマB

テーマC

テーマD

テーマE

研究開発ロードマップ

研究開発ロードマップ設定の視点(例)

○ 研究開発ロードマップについては、以下のような視点から見直しが必要ではないか。

